

上映スケジュール Calendrier		
7.19 [土]	14:55	ヒロシマ・モナムール
	16:40	アリス・ギイ作品集
	17:45	たそがれの女心
7.20 [日]	14:55	パリ1900年 アフタートーク 新田孝行さん
	17:10	湖のランスロ
	18:50	微笑むブーデ夫人
7.21 [月・祝]	14:55	アウト・ワン スペクトル アフタートーク 筒井武文さん
7.22 [火]	14:55	微笑むブーデ夫人
	15:55	インディア・ソング
	18:10	アリス・ギイ作品集 アフタートーク 坂本安美さん
7.23 [水]	14:55	レベル5
	16:55	サン・ソレイユ
	18:50	シベリアからの手紙
7.24 [木]	14:55	アウト・ワン スペクトル
7.25 [金]	14:55	湖のランスロ
	16:30	ヒロシマ・モナムール
	18:10	パリ1900年
7.26 [土]	18:00	レベル5
	20:00	シベリアからの手紙
	21:10	サン・ソレイユ
7.27 [日]	18:00	ヒロシマ・モナムール アフタートーク 筒井武文さん
	20:20	インディア・ソング
7.28 [月]	18:00	湖のランスロ
	19:35	たそがれの女心
	21:30	アリス・ギイ作品集
7.29 [火]	18:00	アウト・ワン スペクトル
7.30 [水]	18:00	インディア・ソング
	20:15	ヒロシマ・モナムール
7.31 [木]	18:00	たそがれの女心
	19:55	パリ1900年
	21:30	微笑むブーデ夫人
8.1 [金]	18:00	アウト・ワン スペクトル

◆入場料金
一般:1,900円
横浜シネマリン会員、アンスティチュ・フランセ会員:1,300円
大学生・専門学校生・シニア(60歳以上):1,300円
高校生以下:800円



*購入はシネマリン受付またはオンラインにてお求めください

「フランス映画入門」

主催:横浜日仏学院 共催:横浜シネマリン 助成:CNC
協力:アイ・ヴィー・シー、マーメイド・フィルム、大寺眞輔氏、パンドラ

Redécouvrons le cinéma français !

Organisé par l'Institut français de Yokohama, avec le soutien du CNC.
Remerciements : IVC, Mermaid Films, Shinsuké Odera, Pandora.

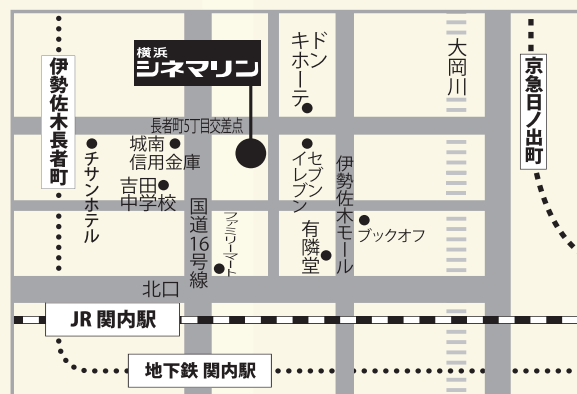


会場・お問い合わせ:

横浜シネマリン

〒231-0033 神奈川県横浜市中区長者町6丁目95

tel:045-341-3180 www.cinemarine.co.jp



Redécouvrons le cinéma français!

フランス映画入門

2025.7.19[土]▶▶8.1[金]

会場:横浜シネマリン

du 19 juillet au 1er août 2025 Au Yokohama Cinemarine



横浜
FRANCE
フランス
YOKOHAMA
月間

AMBAassade
DE FRANCE
AU JAPON
Ambassadeur
Yokohama

INSTITUT
FRANÇAIS
Yokohama
Ambassadeur

「フランス映画入門」では、すでに映画史において確固たる地位を築いているフランス映画を、
今あらためて見ることによって、その現代性を再考します。
映画研究者、映画批評家によるトークとともに、新たな光のもとで、選りすぐりの作品を発見、再発見しましょう！

上映作品／講師 Films & intervenant.e.s

スケジュールは裏面のカレンダーをご確認ください。

《アリス・ギイ作品集》13作 13 courts métrages d'Alice Guy [フランス/計50分]

物語映画の最初期の監督であるアリス・ギイのフランス時代の短編13本。
多くの作品が屋外で撮影されており、様々な映画の技法の発見、アクション、コメディ、メロドラマ
とアイディアに満ちた物語が展開する。

- 催眠術師の家で[1898年/1分/モノクロ]
- 世紀末の外科医[1900年/2分/モノクロ]
- オペラ通り[1900年/1分/モノクロ]
- 全自動の帽子屋兼肉屋[1900年/1分/モノクロ]
- カメラマンの家で[1900年/1分/モノクロ]
- フェリックス・マヨル 失礼な質問[1905年/3分/染色]
- マダムの欲望[1906年/5分/モノクロ]
- フェミニズムの結果[1906年/8分/モノクロ]
- キャスター付きベッド[1907年/4分/モノクロ]
- ソーセージ競争[1907年/5分/モノクロ]
- ビュット＝ショーモン撮影所でフォノセーヌを撮るアリス・ギイ[1907年/2分/モノクロ]
- バリケードを挟んで[1907年/5分/モノクロ]
- 銀行券[1907年/12分/モノクロ]

講師:坂本安美さん [アンスティチュ・フランセ 映画主任／映画批評] 7.22[火]18:10の回上映後



© DR



© DR

微笑むブーデ夫人 La Souriante Madame Beudet de Germaine Dulac

[フランス/1923年/43分/サイレント・伴奏つき/モノクロ]
監督:ジュルメーヌ・デュラック 出演:ジュルメーヌ・デルモーズ、アレクサンドル・アルキリエール
1920年代の前衛芸術の先駆者であるジェルメーヌ・デュラックの『貝殻と僧侶』(1928)とならぶ代表作
でフェミニスト映画の先駆と評される。自由を渴望するブーデ夫人は、平凡で退屈な存在の束縛から抜け
出したいと思っている。残忍な夫に横暴に扱われる彼女が、日々の苦しみから逃れる唯一の方法は、夢を
見ることだった。



© DR

パリ1900年 Paris 1900 de Nicole Védres

[フランス/1947年/83分/モノクロ]
監督:ニコル・ヴェドレス
1900年から1914年までのパリを、ナレーションと約700本以上の記録・劇映画からの抜粋で綴り、当時
の人々の生活と戦争への予感を見事に描き出したニコル・ヴェドレスの傑作ドキュメンタリー。映画批評家
アンドレ・バザンに「文学におけるブルーストに匹敵する」と称え、クリス・マルケルも「私はニコル・ヴェド
レスにすべてを負っている」と敬愛の念を示している。

講師:新田孝行さん [フランス映画史研究] 7.20[日]14:55の回上映後



© DR

たそがれの女心 Madame de ... de Max Ophüls

[フランス/1953年/100分/モノクロ]
監督:マックス・オフルス 出演:ダリエル・ダリュー、シャルル・ボワイエ、ヴィットリオ・デ・シーカ
1953年舞台は1900年、ベル・エポックの華やかなパリ社交界。ダイヤの耳飾りをめぐり、運命の歯車にも
てあそばれる上流階級の男女の人間模様をオフルスが描くメロドラマの傑作。ルイズ・ド・ヴィルモラン
の斬新な世紀末小説をオフルスが映画化した本作では、この監督が得意とするエレガントで精緻なカメラ
ワークが驚くほど効果的に使われている。



© DR

ヒロシマ・モナムール Hiroshima mon amour d'Alain Resnais

[フランス＝日本/1959年/91分/モノクロ]
監督:アラン・レネ 脚本:マルグリット・デュラス 出演:エマニュエル・リヴァ、岡田英次
フランス人女優と日本人建築家は、戦後の広島で束の間の濃密な情事を交わし、互いに惹かれあう気持ち
が、傷ついた愛と苦しみの記憶を呼び覚ます。斬新なフラッシュバックの構成と、マルグリット・デュラスの脚
本による本作は、過去と現在、個人的な痛みとより大きな苦悩が繊細に織り成され、「映画の限界を押し広
げた」(ジャン＝リュック・ゴダール)。

講師:筒井武文さん [映画監督] 7.27[日]18:00の回上映後



© DR

アウト・ワン スペクトル Out 1 spectre de Jacques Rivette

[フランス/1972年/264分/カラー]*途中休憩あり 監督:ジャック・リヴェット
出演:ジャン＝ピエール・レオ、ジュリエット・ベルト、ベルナデット・ラフォン、ビュル・オジエ、ミシェル・ロンズデル
ジャック・リヴェットが13時間に及ぶ大作『アウト・ワン 我に触れるな』を短く再編集した本作は、オリ
ジナルを凝縮したというより、過激に編集、アレンジされ、新たなつながりや意味が生まれた単独で成立す
る作品となっている。大筋は変わらない：パリを舞台に、ジャン＝ピエール・レオとジュリエット・ベルトが
演じる風変わりなふたりは、ふたつの前衛劇団と秘密結社が絡む不吉な陰謀に巻き込まれていく。

講師:筒井武文さん [映画監督] 7.21[月・祝]14:55の回上映後



© DR

湖のランスロ Lancelot du lac de Robert Bresson

[フランス/イタリア/1974年/84分/カラー]
監督:ロベール・ブレッソン 出演:リュック・シモン、ローラ・デューク・コンドミナス、アンペール・バルザン
時は中世。城に帰還したものの、聖杯探しに失敗し多くの戦死者を出したアルテュス王の円卓の騎士たち。
その中のひとり、ランスロは王妃グニエヴルとの道ならぬ恋に苦悩していた。神に不倫をやめると誓うラン
スロだったが、グニエヴルにその気はない。団結していたはずの騎士の間に亀裂が入り始め、思わぬ事態
に……。素人の俳優の起用、抑制された演出、緻密な音響・空間設計など、現代的感覚に満ちたブレッ
ソンによる「極めて特異な内面の冒険」(ロベール・ブレッソン)。



© DR

インディア・ソング India Song de Marguerite Duras

[フランス/1974年/120分/カラー]
監督:マルグリット・デュラス 出演:デルフィーヌ・セリグ、ミシェル・ロンダール、マチュー・カリエール、クロード・マン
全編においてオフの声を活用し、映像と音響の関係の新たな境地を開いたデュラスの映画における代表作。
1930年代のインド・カルカッタ。豪華で朽ち果てた大使館の閉ざされた壁の中で、フランス大使夫人アンヌ
＝マリー・ストレットは複数の男たちとの情事を通して倦怠をしのいでいる。そしてその倦怠は、驚くべき狂
気の噴出によって打ち砕かれていく……。



© DR

《クリス・マルケル名作集》3 films de Chris Marker

シベリアからの手紙 Lettre de Sibérie [フランス＝ソ連/1957年/61分/カラー]

書簡形式のナレーションを決定づける台詞など、クリス・マイケルが独自のスタイルを持った映画作家として
注目を集める契機となり、アンドレ・バザンに「エッセイ映画」と紹介された作品。開発途上のシベリアの街
と大地、そこに生きる人々の風景が、随所に挿入されるアニメーションやアーカイヴ映像によって重層的にと
らえられる。



© 1957 Argos Films

サン・ソレイユ Sans soleil [フランス/1983年/104分/カラー]

世界中を旅するカメラマン、サンドール・クラスナから届いた手紙を朗読する女性。その声に合わせて、クラ
スナが「生の存続の二極地」と呼ぶ、日本とアフリカを中心とした映像がつながっていく。時間と場所、記憶
と歴史、表象の問題について深い考察がなされたマルケルの代表作。



© 1983 Argos Films

レベル5 Level Five [フランス/1996年/110分/カラー] 出演:カトリーヌ・ベルコジャ

ローラは、亡くなった恋人の代わりに、沖縄戦についてのコンピューター・ゲームを完成させようとする。『パ
リ1900年』や『ローラ殺人事件』、『光あれ』などの参照、引用がなされた映画史的記憶に満ちた作品で
あると同時に、インターネット的なネットワーク状に拡張していく編集に特徴付けられた、非常に複雑なメデ
ィア性を持った作品。



© 1996 Argos Films